

# 2017年3月期 第2四半期 決算説明会

2016年11月8日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 穂川 稔



- 2017年3月期 第2四半期 連結決算の概況
- 主力製品、後発医薬品の取り組みについて
- 2017年3月期 連結業績予想と配当
- 研究開発パイプラインの状況

2017年3月期 第2四半期  
連結決算の概況

# 2017年3月期 第2四半期 連結決算の概観

(単位:億円)

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	524	<b>546</b>	+22	+4.3	+7
営業利益	41	<b>37</b>	-4	-10.6	-2
経常利益	43	<b>39</b>	-4	-8.1	-3
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	30	<b>27</b>	-3	-9.5	-3

16年3月期	17年3月期 (予想)
1,195	<b>1,200</b>
196	<b>145</b>
200	<b>149</b>
136	<b>107</b>

※通期の業績予想について：16年5月12日に公表した通期の業績予想につきましては、現段階で変更いたしておりません

# 売上高(セグメント別)の増減(連結)

(単位:億円)

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	対前年		対予想	
			増減額	増減率(%)	増減額	
売上高	524	<b>546</b>	+22	+4.3	+7	
医療用医薬品事業	497	<b>519</b>	+22	+4.4	+7	
	新医薬品	424	<b>416</b>	-8	-1.8	-2
	国内	418	<b>413</b>	-5	-1.2	-2
	海外	6	<b>3</b>	-3	-42.3	0
	後発医薬品	74	<b>103</b>	+29	+39.8	+10
ヘルスケア事業	26	<b>27</b>	+1	+1.7	0	

※2017年3月期 第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。  
変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。  
また、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## 【売上高増減のポイント】

	対前年	増減のポイント	対予想	増減のポイント
新医薬品(国内)	<b>-5</b>	・フルティフォームが伸長 ・キプレス、ムコダインが減少	<b>-2</b>	・フルティフォーム、ムコダインが予想を下回った
後発医薬品	<b>+29</b>	・モンテルカストAGの発売 ・その他GEの売上も増加	<b>+10</b>	・モンテルカストAGが予想を上回った

# 損益の概要(連結)

(単位:億円)

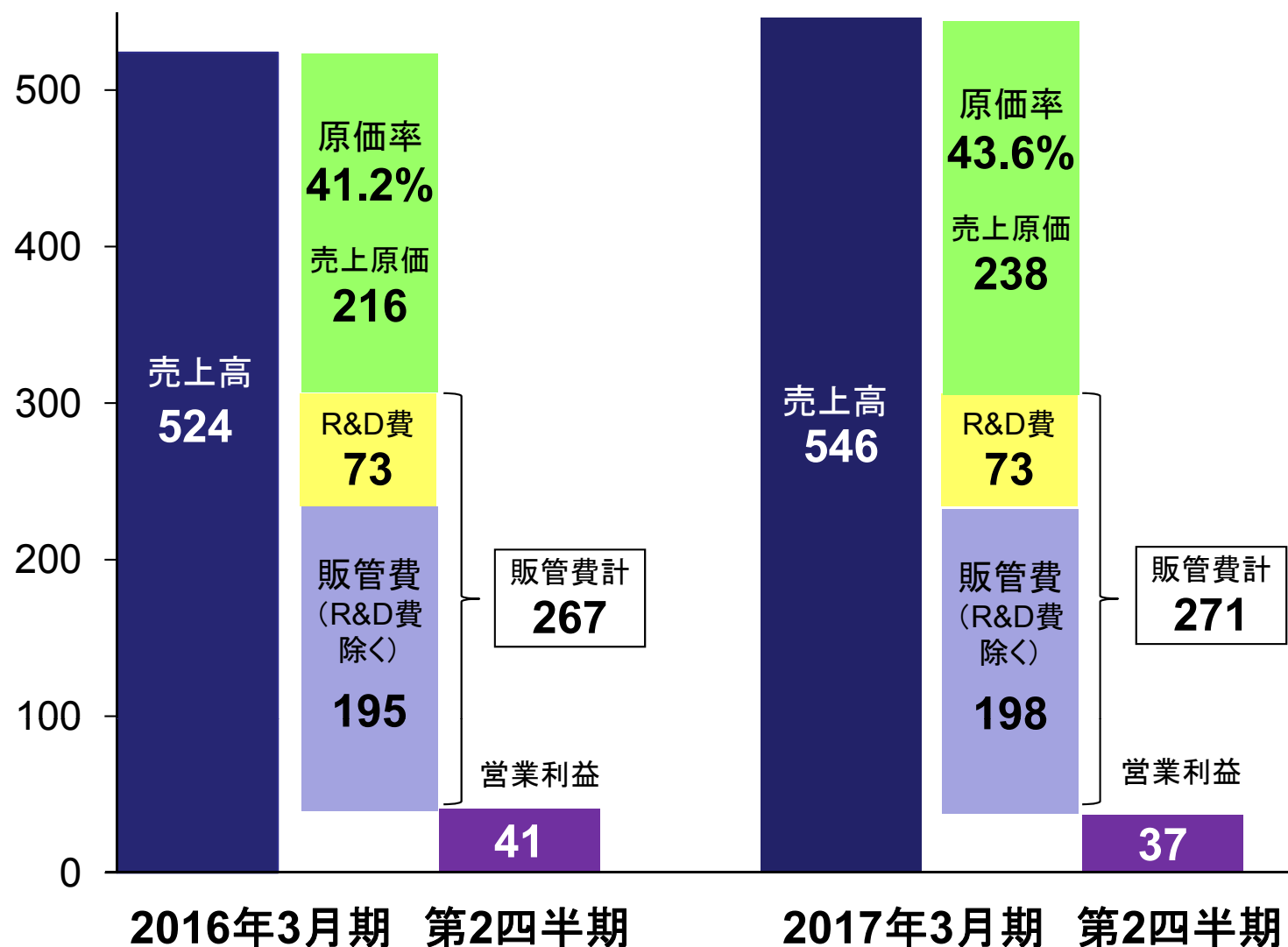
	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	524	<b>546</b>	+22	+4.3	+7
売上原価	216	<b>238</b>	+22	+10.5	—
販売費及び一般管理費	267	<b>271</b>	+4	+1.5	—
R&D費	73	<b>73</b>	0	+0.8	+10
販管費(R&D費除く)	195	<b>198</b>	+3	+1.8	—
営業利益	41	<b>37</b>	-4	-10.6	-2
経常利益	43	<b>39</b>	-4	-8.1	-3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	30	<b>27</b>	-3	-9.5	-3

## 【営業利益増減のポイント】

	対予想	増減のポイント
営業利益	<b>-2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢売上総利益の増加 : 増収により売上総利益が予想を上回った</li> <li>➢R&amp;D費(+10億円) : 開発プロジェクトの進捗(KRP-AM1977X等)</li> </ul>

# 2017年3月期 第2四半期 業績のポイント

(単位: 億円)



## <ポイント>

### ➤売上高は前年比22億円増

- ・主力製品の売上増 (フルティフォーム等)
- ・モンテルカストAGの発売

### ➤売上原価率は2.4%上昇

- ・薬価改定の影響
- ・後発医薬品の売上ウェイト上昇 (GE及びモンテルカストAG)

### ■売上総利益は横ばい

### ➤販管費は前年比4億円増

- ・販管費(R&D費除く)は3億円増  
主に人件費(退職給付費用)の増加

### ■営業利益は前年比4億円減

# 主力製品、後発医薬品の売上状況

(単位:億円)

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	188	<b>178</b>	-10	-5.2	+2
フルティフォーム	30	<b>45</b>	+15	+51.1	-9
ウリトス	37	<b>38</b>	+1	+2.0	+2
ペンタサ	81	<b>79</b>	-2	-3.0	+5
ムコダイン	59	<b>44</b>	-15	-26.6	-4

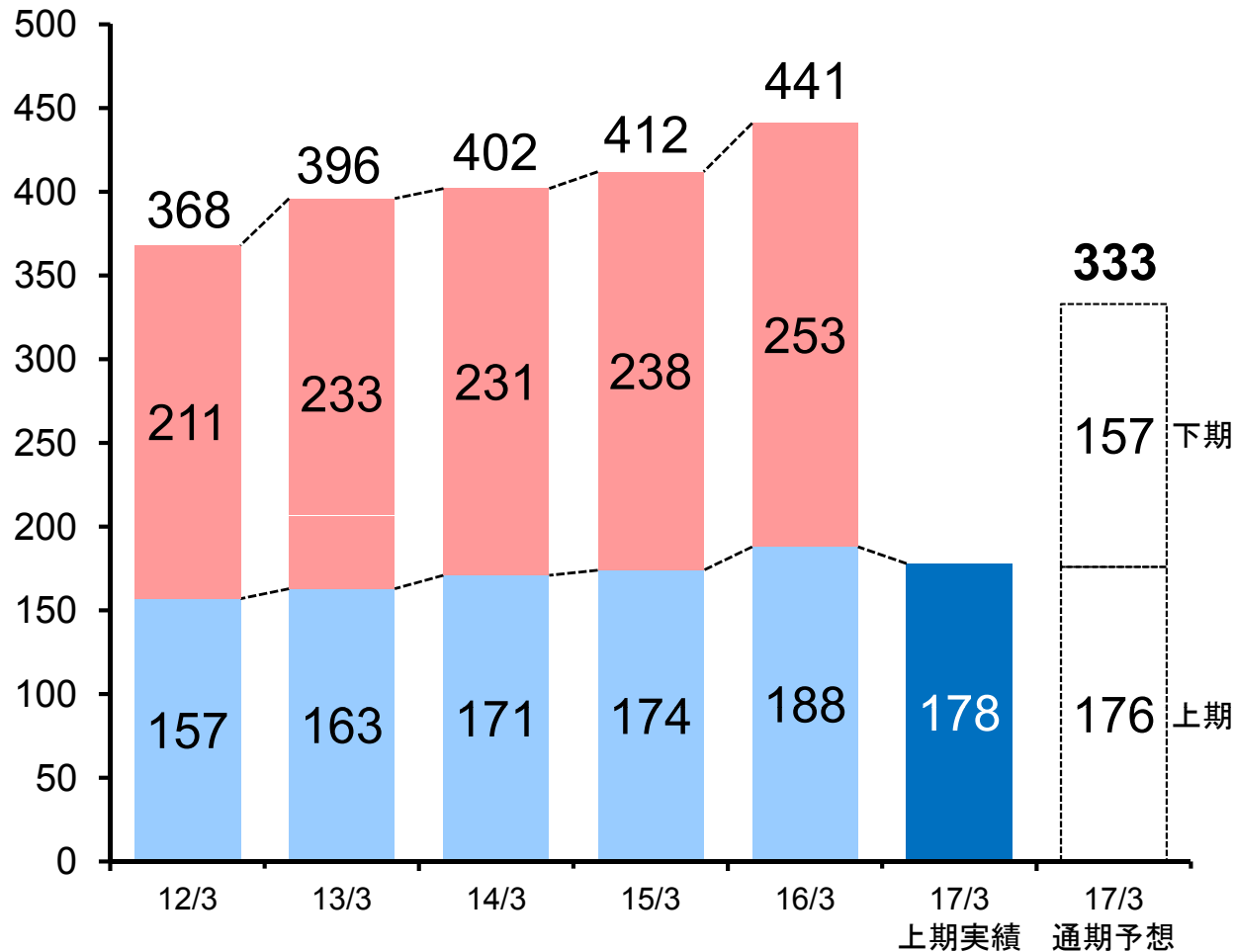
後発医薬品	74	<b>103</b>	+29	+39.8	+10
-------	----	------------	-----	-------	-----



# 主力製品、後発医薬品の取り組みについて

# ■新薬群 キプレス(気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)

売上高 (単位:億円)



## ■2017年3月期(2016年度)上期の状況

●ロイコトリエン拮抗剤市場(薬価ベース) : 約5%減少  
588億円(15年4-9月) ⇒ 561億円(16年4-9月) 注1

●キプレスの売上シェア  
38.5%(15年4-9月) ⇒ 38.2%(16年4-9月) 注2

【薬価改定率(本体薬価ベース) ▲8.3%】

## ■2017年3月期(2016年度)の取り組み

●小児剤形(チュアブル錠・細粒)の普及拡大に注力

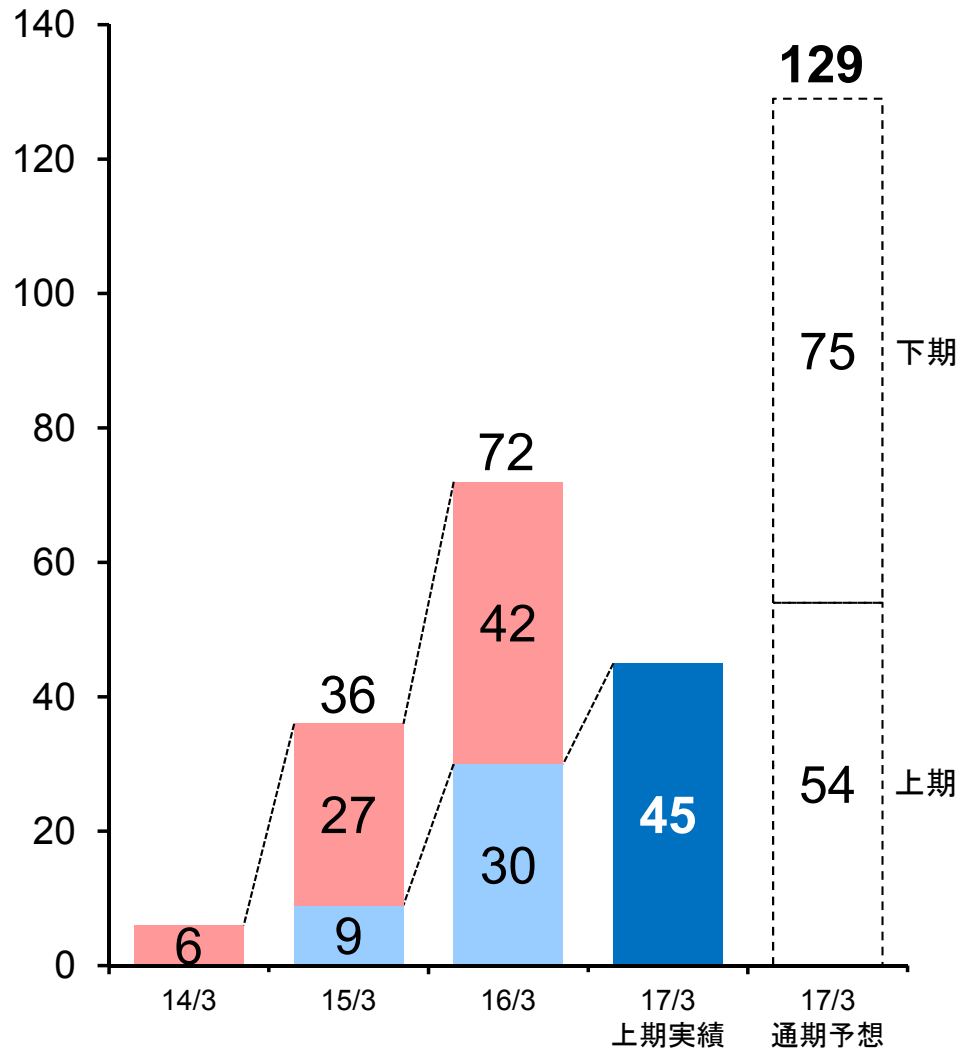
・通期売上予想 : 約140億円(前年:約150億円)

●オーソライズド・ジェネリック(AG)を発売し、先発品と両剤剤を調剤できる状況をつくる

注1,2 Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止

# ■新薬群 フルティフォーム(喘息治療配合剤)

売上高 (単位: 億円)



## ■2017年3月期(2016年度)上期の状況

●ICS/LABA配合剤市場(薬価ベース): 約6%拡大

514億円(15年4-9月) ⇒ 543億円(16年4-9月) 注1

●フルティフォームの売上シェア

6.6%(15年4-9月) ⇒ 9.3%(16年4-9月) 注2

【薬価改定率(本体薬価ベース) ▲0.2%】

## ■2017年3月期(2016年度)の取り組み

●新規採用及び高需要先におけるシェアの拡大

●コントロール不十分な喘息患者さんへの処方推進

- ・エアゾール製剤(pMDI)の有用性・簡便性を訴求
- ・喘息増悪期における新規処方提案

注1、2 Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止

注3 pMDI: 加圧噴霧式定量吸入器 (pressurized metered-dose inhaler)

# ■新薬群 デザレックス(アレルギー性疾患治療剤)

- 製造販売承認を取得 (MSD(株)、2016年9月)
- 上市予定 (2016年11月)
- 売上予想: 19億円 (2017年3月期)
  - ・MSD(株)より独占販売権を取得 (2016年5月)
  - ・科研製薬(株)と皮膚科の医師・医療機関を対象とするコ・プロモーションに関する基本覚書締結 (2016年7月)  
(抗ヒスタミン薬市場1,465億円(12歳以上)の内、皮膚科領域は23%を占める 注1)



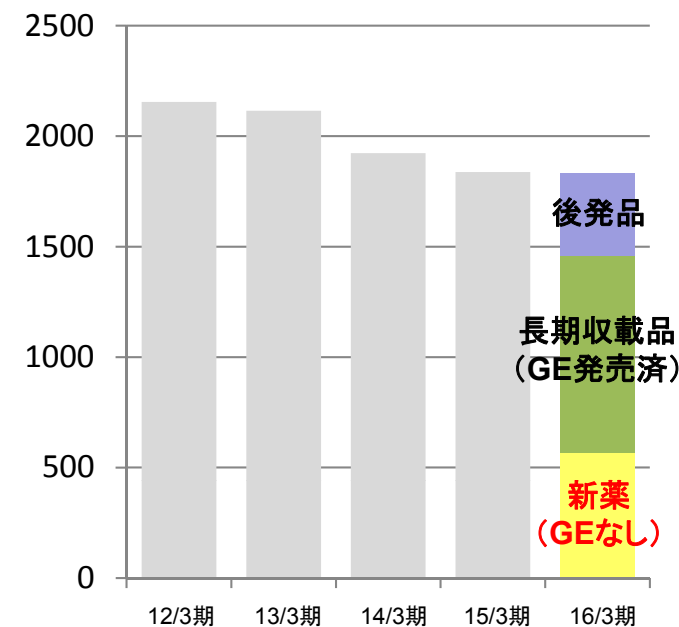
## 【製品情報】

製品名 : デザレックス錠5mg (DESALEX Tablets 5mg)  
薬効 : 第2世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬  
効能・効果 : アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症)に伴うそう痒  
用法・用量 : 通常、12歳以上の小児及び成人にはデスロラタジンとして1回5mgを1日1回経口投与する

### 特長

- ・ヒスタミンH1受容体に対して高い親和性を示し、確実に効果を発揮する
- ・半減期が長く、1日1回の服薬で長時間にわたって症状を抑える
- ・眠気を起こしにくく、食事の影響を受けないことから患者さんがライフスタイルに合わせて服用できる

## 【抗ヒスタミン薬市場の推移 注2】



製品特性の理解促進と発売後の早期市場浸透を目指す

# ナゾネックス点鼻液(アレルギー性鼻炎治療剤)

- MSD(株)とコ・プロモーション契約を締結(2016年9月)
  - ・内科、耳鼻科、小児科のターゲット先を対象にディテール活動を行う
- プロモーション開始(2016年11月)



## 【製品情報】

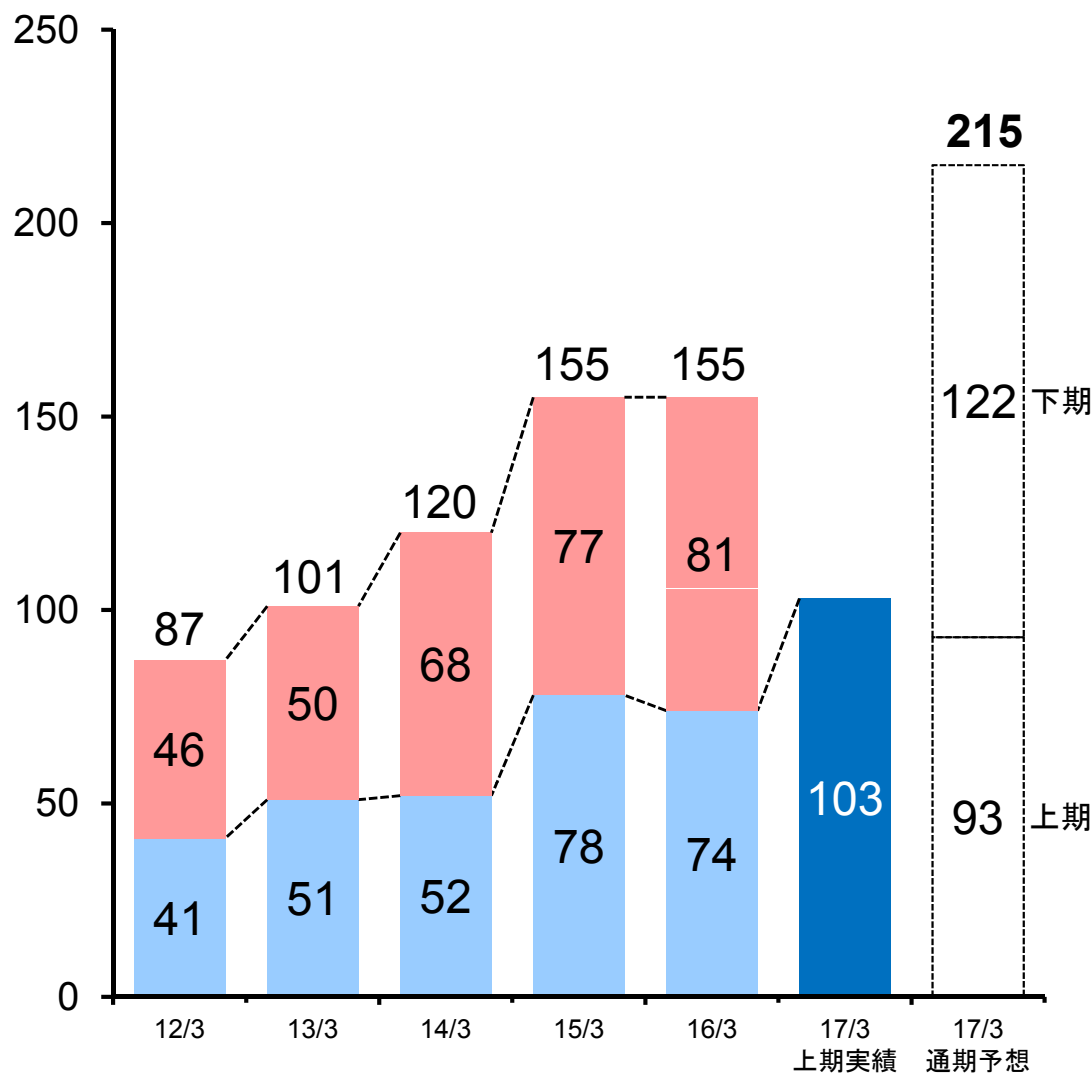
- 薬効 : 鼻噴霧用ステロイド薬  
効能・効果 : アレルギー性鼻炎  
特長 : 1日1回投与の鼻噴霧用ステロイド薬でアレルギー性鼻炎の各鼻症状(くしゃみ、鼻汁、鼻閉、鼻内そう痒感)に対し優れた効果を示す

## 【市場について】

- 市場規模 : 350億円強※  
主な製品 : ナゾネックス(トップシェア)  
アラミスト、  
エリザス、  
フルナーゼ等

※2015年(1月-12月): Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止

売上高（単位：億円）



## ■ 2017年3月期(2016年度) 上期の状況

- 2016年9月にオーソライズドジェネリック(AG)を発売
- AG除く売上増加率+15.4%  
自社販売を中心に売上が前年を上回る

## ■ 2017年3月期(2016年度)の取り組み

- モンテルカストAGのGE市場内での高いシェア獲得を目指す
- モンテルカストAGに続く、新たなAG獲得を検討する
- 主導的共同開発の推進

## 【新研究所の建設について】

- ・建設地：富山県高岡市オフィスパーク11番
- ・着工：2016年7月
- ・竣工：2017年3月予定
- ・運用開始：2017年7月予定
- ・建設費用：約20億円予定



- ・製剤開発力の強化、自社開発品目数の増加を目指す
- ・目標：年間開発品20品目以上

2017年3月期  
連結業績予想と配当

# 2017年3月期 連結業績予想

(単位:億円)

	16年3月期 実績	17年3月期 予想	対前年		
			増減額	増減率(%)	
売上高	1,195	<b>1,200</b>	+5	+0.4	
	1,140	<b>1,140</b>	0	+0.0	
医療用医薬品事業	新医薬品	985	924	-61	-6.2
	国内	929	885	-44	-4.8
	海外	56	38	-18	-32.0
	後発医薬品	155	215	+60	+39.0
ヘルスケア事業	55	60	+5	+8.9	
営業利益	196	<b>145</b>	-51	-26.2	
経常利益	200	<b>149</b>	-51	-25.5	
親会社株主に帰属する当期純利益	136	<b>107</b>	-29	-21.5	

【参考】対前年のポイント：①売上原価率は前年比で約3%上昇、販管費率(R&D除く)は前年比で1%弱上昇  
②R&D費用は135億円を見込む(2016年3月期:130億円)

※通期の業績予想について：16年5月12日に公表した通期の業績予想は、現段階で変更いたしておりません。



# 2017年3月期 主力製品の売上予想

(単位:億円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	対前年	
			増減額	前年同期比(%)
キプレス	441	<b>333</b>	-108	-24.3
フルティフォーム	72	<b>129</b>	+57	+78.4
ウリトス	75	<b>78</b>	+3	+5.0
デザレックス	—	<b>19</b>	+19	—
ペンタサ	161	<b>158</b>	-3	-1.7
ムコダイン	130	<b>108</b>	-22	-16.7
後発医薬品	155	<b>215</b>	+60	+39.0

# 株主還元について

## 基本方針

- ・健全な財務基盤を維持する中で、成長投資と安定的な株主還元が両立する資本政策とする
- ・株主還元は、安定的な配当を目指す  
17年3月期の1株当たり配当金(予想) : 58円(うち中間20円)

## 配当の推移

	15年3月期	16年3月期	17年3月期(予想)
1株当たり配当金	52円 (うち中間20円)	58円 (うち中間20円)	58円 (うち中間20円)
連結配当性向	32.2%	31.8%	40.5%

- ・2016年5月12日に公表しました配当予想の変更はございません。
- ・中間配当の20円につきましては、11月7日の取締役会で決議されました。

# 研究開発パイプラインの状況

# 開発パイプライン:2016年度の取り組み

## 16年度の取り組み

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	Ad-SGE-REIC	15年7月 Ph I / Ph II 開始				
感染症	KRP-AM1977X			Ph III 終了		18年度 上市(目標)
	KRP-AM1977Y			16年3月 Ph III 開始		19年度 上市(目標)
耳鼻科	KRP-209		15年8月 Ph II (再)			
	デザレックス					16年9月 製造販売承認取得 16年11月 上市(予定)
泌尿器	KRP-114V			15年1月 Ph III 開始		18年度 上市(目標)

### 【導出品の状況について】

#### 「FPR2 (Formyl peptide receptor) 作動薬プログラム」について

- 作用メカニズム：主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す (Gタンパク質共役型受容体アゴニスト)
- 導出契約：米国BMS社に対するライセンス供与(2015年12月)

全世界での独占的な権利(開発権、製造権、販売権)をBMS社に供与。BMS社は本プログラムの対象とする適応症(非開示)において、開発を進め、早期の上市を目指す

#### 「KRP-203」について

- 作用メカニズム：スフィンゴシン-1-リン酸(S1P)受容体アゴニスト
- 導出契約：ノバルティスに対するライセンス供与(2006年2月)
- 臨床試験の状況：現在、血液がんのため造血幹細胞移植を受ける患者さんを対象としたPh I 試験が進行中。症例数をトータル30例としKRP-203の安全性・有効性・薬物動態について、検討を行っている

全世界で新薬ニーズの高い「GvHD(移植片対宿主病)」における新規薬剤として、開発・製品化を進めている

## ■一般名：ラスクフロキサシン（lascufloxacin、略号：LSFX）

### 【特徴】

- ・グラム陽性菌から陰性菌及び非定型菌までの幅広い抗菌スペクトラムを示し、嫌気性菌に対しても類剤と比較し強力な抗菌活性を有する
- ・標的組織（肺）への優れた移行性を示す
- ・高い安全性（血糖値異常、光線過敏症、消化器症状他）が期待される

### 「KRP-AM1977X」（経口剤）開発状況

#### ● 第Ⅲ相臨床試験：結果（2016年11月公表）

- ◆ 呼吸器・耳鼻科の市中感染症に対する高い有効性・安全性が検証された

#### ● 申請

準備中

### 「KRP-AM1977Y」（注射剤）開発状況

#### ● 第Ⅱ相臨床試験：結果

- ◆ 軽症～重症の市中肺炎患者に対する有効性、安全性を検討
  - ・早期治療効果を含め、高い有効性が確認された
  - ・高い安全性が示唆された

#### ● 第Ⅲ相臨床試験：2016年3月開始

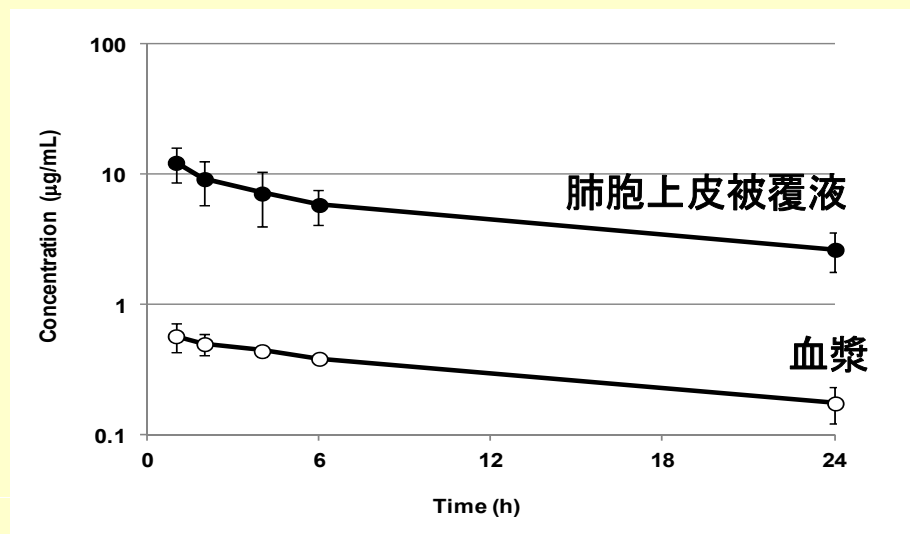
試験：市中肺炎患者を対象とした二重盲検比較試験

早期の申請・製品化を目指す

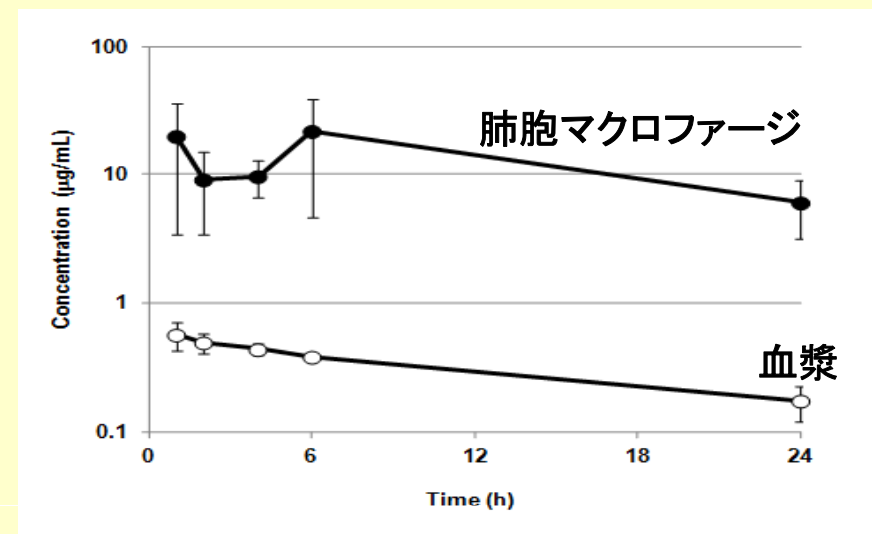
# 標的組織への移行性について

## KRP-AM1977Xは高い肺内移行性を示した

血漿中及び肺胞上皮被覆液中 AM-1977濃度\*1



血漿中及び肺胞マクロファージ中AM-1977濃度\*1



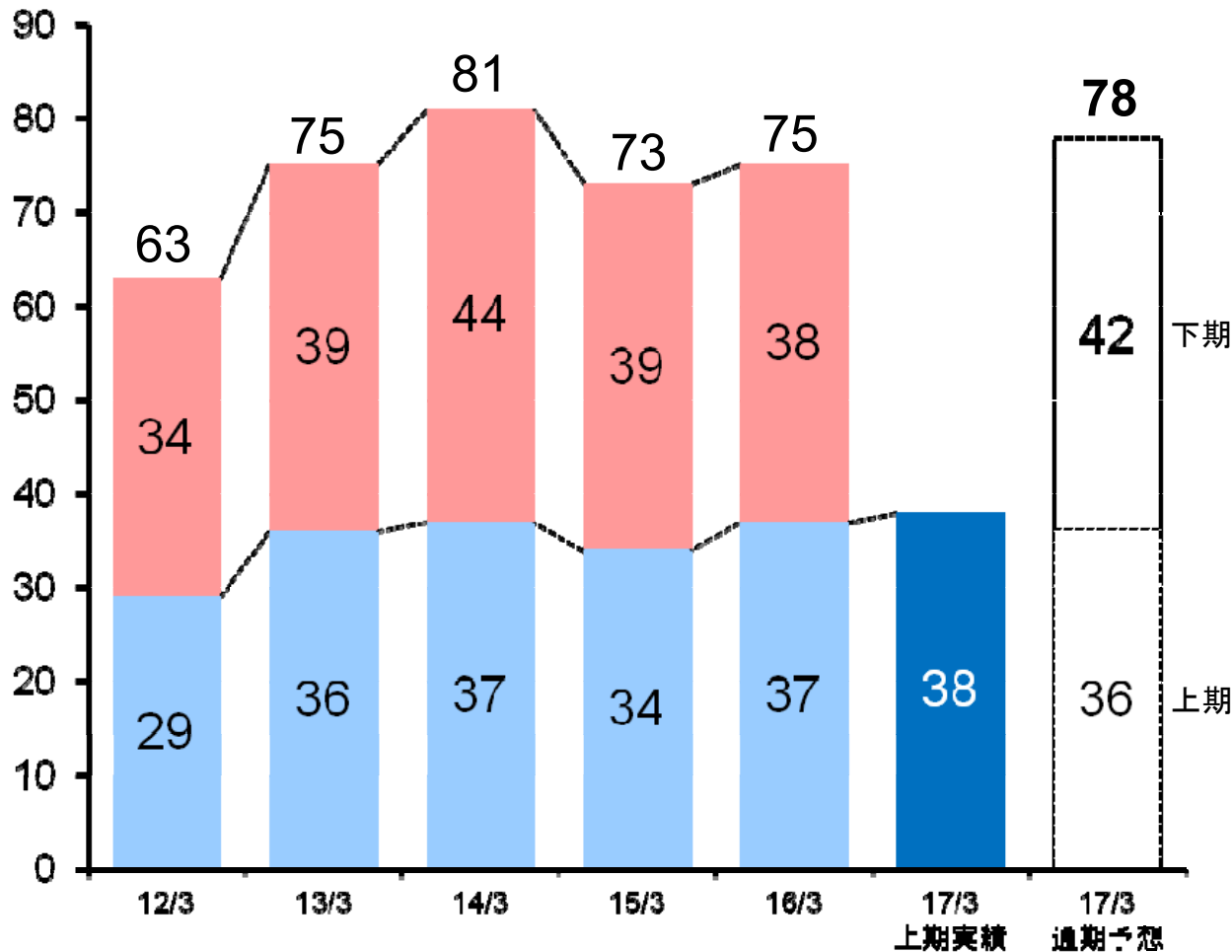
### 「KRP-AM1977Xの肺組織移行率」

単位：倍	AM-1977X 75mg
肺胞上皮被覆液	15.0-22.5
肺胞マクロファージ	18.5-56.4

# 参考資料

# ■新薬群 ウリトス(過活動膀胱治療剤)

売上高 (単位:億円)



## ■2017年3月期(2016年度)上期の状況

- OAB市場(薬価ベース) : 約5%拡大

426億円(15年4-9月) ⇒ 447億円(16年4-9月) 注1

- ウリトスの売上シェア

9.6%(15年4-9月) ⇒ 9.3%(16年4-9月) 注2

【薬価改定率(本体薬価ベース) ▲0.4%】

## ■2017年3月期(2016年度)の取り組み

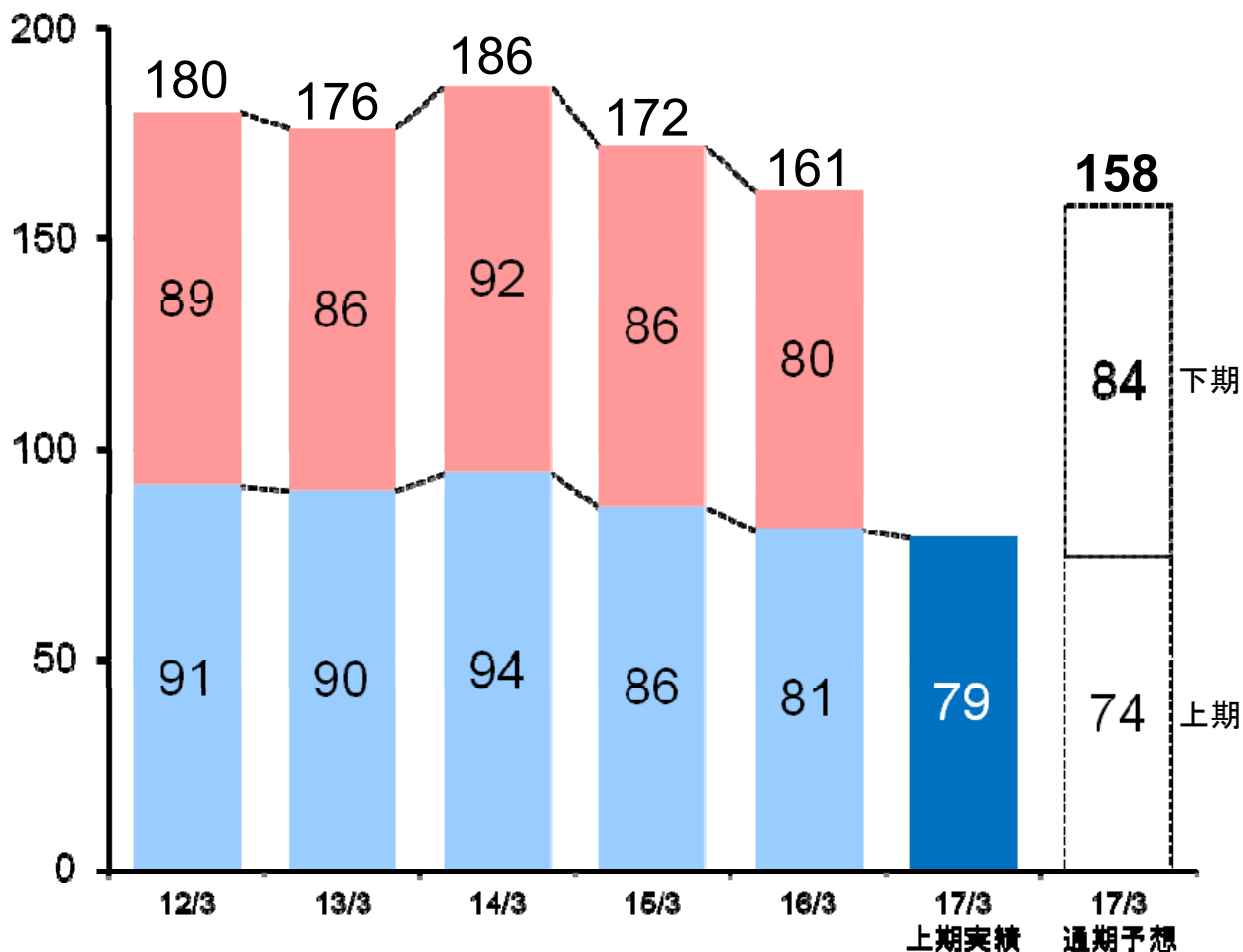
- 夜間頻尿でのポジショニング確立 (エビデンス活用)
- 症状に合わせた治療提案を推進 (1日2回投与、増量可能)

注1,2 Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止



# ■先発品群 ペンタサ(潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)

売上高 (単位:億円)



## ■2017年3月期(2016年度)上期の状況

●腸内抗炎症剤市場(薬価ベース)：約7%縮小  
196億円(15年4-9月) ⇒ 182億円(16年4-9月) 注1

●ペンタサの売上シェア  
46.7%(15年4-9月) ⇒ 48.4%(16年4-9月) 注2

【薬価改定率(本体薬価ベース) ▲9.3%】

## ■2017年3月期(2016年度)の取り組み

●活動期4g(2回/1日)寛解期2g(1回/1日)処方への訴求

●「ペンタサ顆粒94%」普及の最大化(15年12月発売)

●経口剤と局所製剤のコンビネーションセラピー浸透  
・経口剤、坐剤、注腸剤の併用療法

注1,2 Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止

## ペンタサ:経口剤と局所製剤のラインナップ

患者さん個々の治療ニーズに応える豊富な剤形で、  
5-ASA製剤におけるIBD治療の価値最大化を目指す

ペンタサ顆粒94%



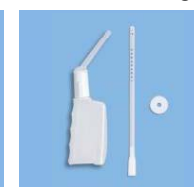
ペンタサ錠250mg



ペンタサ錠500mg



ペンタサ注腸1g

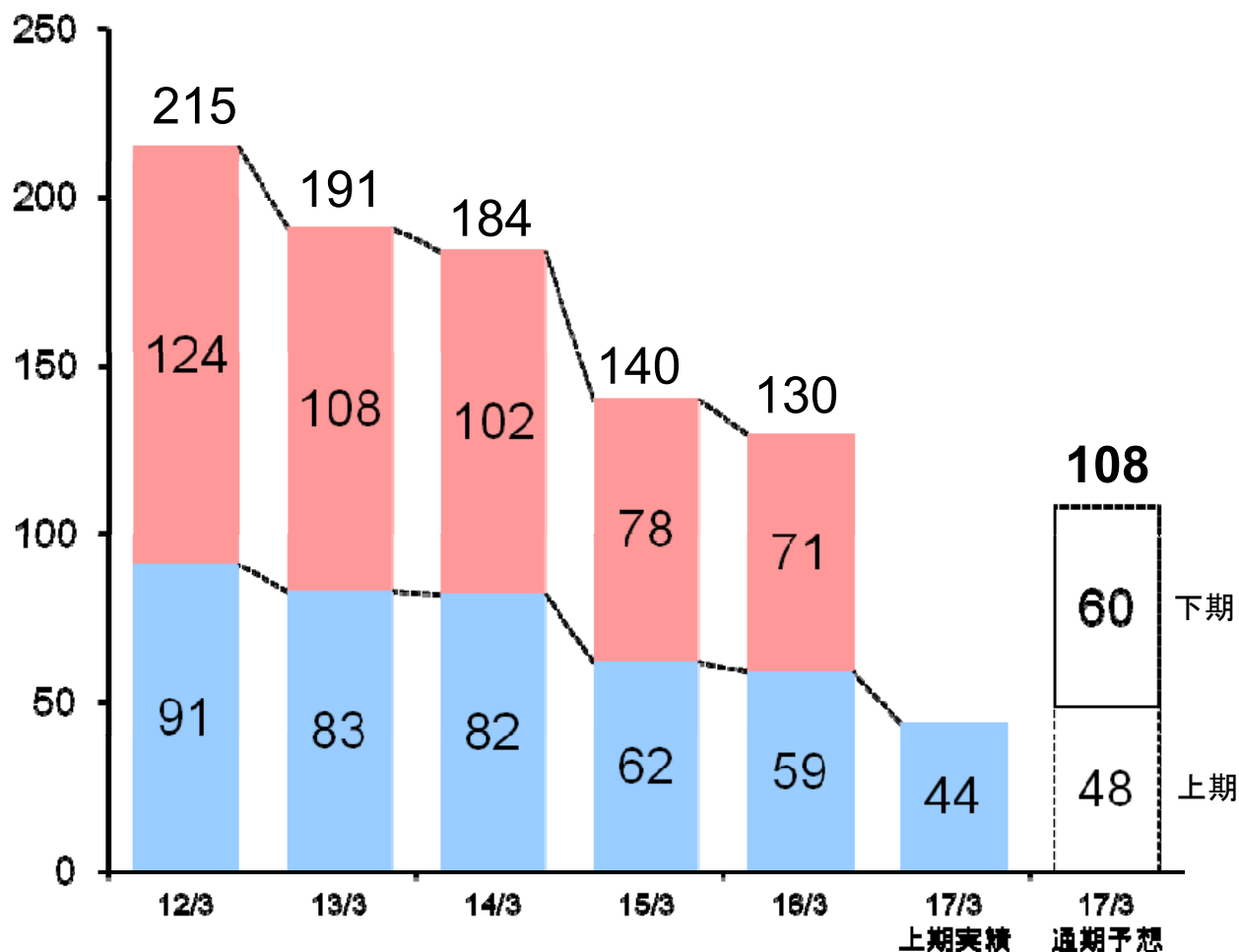


ペンタサ坐剤1g



# ■先発品群 ムコダイン(気道粘液修復・粘膜正常化剤)

売上高 (単位: 億円)



## ■2017年3月期(2016年度)上期の状況

- 去痰剤市場(薬価ベース) : 約9%減少  
180億円(15年4-9月)⇒163億円(16年4-9月) 注1
  - ムコダインの売上シェア  
37.8%(15年4-9月) ⇒ 31.4%(16年4-9月) 注2
  - ジェネリック(カルボシステイン)のシェア  
13.3%(15年4-9月) ⇒ 17.7%(16年4-9月) 注3
- 【薬価改定率(本体薬価ベース) ▲7.0%】

注1, 2, 3 Copyright © 2016 QuintilesIMS. IMS-JPMを基に作成 無断転載禁止

# 損益計算書の概要(連結)①

(単位:百万円)

## <当期のポイント>

	16年3月期 第2四半期		17年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	52,386	100.0%	<b>54,628</b>	100.0%	+4.3%	+2,242
医療用医薬品事業	49,741	95.0%	<b>51,936</b>	95.1%	+4.4%	+2,195
◆新医薬品	42,357	80.9%	<b>41,615</b>	76.2%	-1.8%	-742
○国内	41,762	79.7%	<b>41,272</b>	75.6%	-1.2%	-490
○海外	594	1.1%	<b>343</b>	0.6%	-42.3%	-251
◆後発医薬品	7,383	14.1%	<b>10,321</b>	18.9%	+39.8%	+2,938
ヘルスケア事業	2,645	5.0%	<b>2,691</b>	4.9%	+1.7%	+46

	16.3(2Q)	⇒	17.3(2Q)	(億円)
●売上高	54,628		56,870	(+2,242)
●国内新医薬品	41,272		41,762	(+490)
●海外新医薬品	343		594	(+251)
●後発医薬品	10,321		7,383	(-2,938)
●ヘルスケア事業	2,691		2,645	(-46)

・キプレス	188	⇒	178	(-10)
・フルティフォーム	30	⇒	45	(+15)
・ウリトス	37	⇒	38	(+1)
・ペンタサ	81	⇒	79	(-2)
・ムコダイン	59	⇒	44	(-15)
●後発医薬品	10,321		7,383	(-2,938)
●ヘルスケア事業	2,691		2,645	(-46)

## <適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)  
Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH  
ActivX Biosciences, Inc.  
キョーリン リメディオ(株)  
キョーリン メディカルサプライ(株)  
ドクタープログラム(株)  
キョーリン製薬グループ工場(株)  
持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

# 損益計算書の概要(連結)－②

(単位:百万円)

	16年3月期 第2四半期		17年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	52,386	100.0%	<b>54,628</b>	100.0%	+4.3%	+2,242
売上原価	21,561	41.2%	<b>23,830</b>	43.6%	+10.5%	+2,269
売上総利益	30,825	58.8%	<b>30,797</b>	56.4%	-0.1%	-28
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	26,726 (7,270)	51.0% (13.9%)	<b>27,134</b> (7,327)	49.7% (13.4%)	+1.5% (+0.8%)	+408 (+57)
営業利益	4,099	7.8%	<b>3,663</b>	6.7%	-10.6%	-436
営業外収益	206	0.4%	<b>276</b>	0.5%	+34.0%	+70
営業外費用	39	0.1%	<b>17</b>	0.0%	-56.4%	-22
経常利益	4,266	8.1%	<b>3,921</b>	7.2%	-8.1%	-345
特別利益	0	0.0%	<b>0</b>	0.0%	0%	0
特別損失	107	0.2%	<b>88</b>	0.2%	-17.8%	-19
税金等調整前 四半期純利益	4,159	7.9%	<b>3,833</b>	7.0%	-7.8%	-326
法人税・住民税 及び事業税	936	1.8%	<b>679</b>	1.2%	-27.5%	-257
法人税等調整額	255	0.5%	<b>468</b>	0.9%	+83.5%	+213
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,967	5.7%	<b>2,684</b>	4.9%	-9.5%	-283

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比2.4ポイント上昇  
(41.2%→43.6%)

- ・薬価改定の影響
- ・後発医薬品の売上ウェイト上昇  
(GE及びモンテルカストAG)

◆研究開発費率：前年比0.5ポイント低下  
(13.9%→13.4%)

\*73億円→73億円(金額は横ばい)

◆販管費率(除くR&D費)：前年比0.8ポイント低下  
(37.1%→36.3%)

\*195億円→198億円(3億円増加)  
主に人件費(退職給付費用)の増加

■営業利益 **3,663**百万円 ( -436百万円)

\*営業利益率は6.7%と1.1ポイント低下

■親会社株主に帰属 **2,684**百万円 ( -283百万円)

する四半期純利益

■配当(中間) **20円00銭**

# 貸借対照表の概要(連結)

(単位:百万円)

	16年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	138,483	70.0%
現金及び預金	45,712	—
受取手形及び売掛金	48,296	
有価証券	5,989	
棚卸資産	27,665	
その他流動資産	10,818	
<b>固定資産</b>	59,342	30.0%
有形固定資産	22,788	—
無形固定資産	1,201	
投資その他	35,353	
<b>資産合計</b>	197,825	100.0%

<b>流動負債</b>	28,052	14.2%
支払手形及び買掛金	11,792	—
その他流動負債	16,259	
<b>固定負債</b>	12,723	6.4%
<b>負債合計</b>	40,776	20.6%
<b>株主資本</b>	149,808	75.7%
<b>その他の包括利益累計額</b>	7,241	3.7%
その他有価証券評価差額金	10,372	—
為替換算調整勘定	160	
退職給付に係る調整累計額	-3,292	
<b>純資産合計</b>	157,049	79.4%
<b>負債及び純資産合計</b>	197,825	100.0%

17年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>130,610</b>	<b>69.4%</b>	<b>-7,873</b>
51,881	—	—
39,222		
5,976		
25,771		
7,758		
<b>57,675</b>	<b>30.6%</b>	<b>-1,667</b>
22,588	—	—
1,061		
34,024		
<b>188,285</b>	<b>100.0%</b>	<b>-9,540</b>

<b>24,123</b>	<b>12.8%</b>	<b>-3,929</b>
10,585	—	—
13,538		
<b>10,442</b>	<b>5.5%</b>	<b>-2,281</b>
<b>34,565</b>	<b>18.4%</b>	<b>-6,211</b>
<b>149,170</b>	<b>79.2%</b>	<b>-638</b>
<b>4,548</b>	<b>2.4%</b>	<b>-2,693</b>
7,550	—	—
-40		
-2,961		
<b>153,719</b>	<b>81.6%</b>	<b>-3,330</b>
<b>188,285</b>	<b>100.0%</b>	<b>-9,540</b>

## <当期のポイント>

### ■流動資産：7,873百万円減

- ・現金及び預金の増加 ( +6,169百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 ( -9,074百万円)
- ・有価証券の減少 ( -13百万円)
- ・棚卸資産の減少 ( -1,894百万円)
- ・その他流動資産の減少 ( -3,060百万円)

### ■固定資産：1,667百万円減

- ・有形固定資産の減少 ( -200百万円)
- ・無形固定資産の減少 ( -140百万円)
- ・投資その他の減少 ( -1,329百万円)

### ■流動負債：3,929百万円減

- ・支払手形及び買掛金の減少 ( -1,207百万円)
- ・その他流動負債の減少 ( -2,721百万円)

### ■固定負債：2,281百万円減

# 主な業績項目の推移(連結)

(単位:百万円)

	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	16年3月期	17年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	51,112 (332)	52,386 (594)	<b>54,628</b> <b>(343)</b>	119,483 (5,586)	<b>120,000</b> <b>(3,800)</b>
売上原価 (売上原価率)%	21,340 (41.8%)	21,561 (41.2%)	<b>23,830</b> <b>(43.6%)</b>	47,360 (39.6%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	25,183 (49.3%)	26,726 (51.0%)	<b>27,134</b> <b>(49.7%)</b>	52,486 (43.9%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	6,674 (13.1%)	7,270 (13.9%)	<b>7,327</b> <b>(13.4%)</b>	13,019 (10.9%)	<b>13,500</b> <b>(11.3%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	4,587 (9.0%)	4,099 (7.8%)	<b>3,663</b> <b>(6.7%)</b>	19,636 (16.4%)	<b>14,500</b> <b>(12.1%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	4,898 (9.6%)	4,266 (8.1%)	<b>3,921</b> <b>(7.2%)</b>	19,995 (16.7%)	<b>14,900</b> <b>(12.4%)</b>
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	3,495 (6.8%)	2,967 (5.7%)	<b>2,684</b> <b>(4.9%)</b>	13,639 (11.4%)	<b>10,700</b> <b>(8.9%)</b>
一株当たり当期利益(円)	46.78円	40.10円	<b>36.56円</b>	184.28円	<b>145.23円</b>
資本金	700	700	<b>700</b>	700	—
総資産	164,354	187,729	<b>188,285</b>	197,825	—
純資産	139,037	151,646	<b>153,719</b>	157,049	—
一株当たり純資産(円)	1,860.90円	2,047.91円	<b>2,093.71円</b>	2,131.67円	—
自己資本利益率%	2.5%	2.0%	<b>1.7%</b>	8.9%	—
自己資本比率%	84.6%	80.8%	<b>81.6%</b>	79.4%	—
人員(人)	2,482人	2,448人	<b>2,427人</b>	2,420人	—
設備投資	1,557	5,637	<b>1,383</b>	7,218	<b>4,700</b>
減価償却費	1,462	1,658	<b>1,751</b>	3,730	<b>3,900</b>

## 報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	<b>546</b>	<b>+22</b>	<b>37</b>	<b>-4</b>
医療用医薬品事業計	<b>519</b>	<b>+22</b>	<b>36</b>	<b>-4</b>
◆新医薬品	<b>416</b>	<b>-8</b>		
○国内	413	-5		
○海外	3	-3		
◆後発医薬品	<b>103</b>	<b>+29</b>		
ヘルスケア事業計	<b>27</b>	<b>+1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
調整額	—	—	<b>1</b>	<b>0</b>

(注)2017年3月期 第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。  
変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。  
また、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

# 2017年3月期 第2四半期 業績と予想(連結)

(単位:百万円)

	16年3月期 第2四半期 (実績)	17年3月期 第2四半期 (実績)	前年差額	前年比	17年3月期 第2四半期 (予想)	予想比	16年3月期	17年3月期 (予想)
売上高	52,386	<b>54,628</b>	+2,242	+4.3%	<b>53,900</b>	+1.4%	119,483	<b>120,000</b>
医療用医薬品事業	49,741	<b>51,936</b>	+2,195	+4.4%	<b>51,200</b>	+1.4%	113,970	<b>114,000</b>
◆新医薬品	42,357	<b>41,615</b>	-742	-1.8%	<b>41,800</b>	-0.4%	98,506	<b>92,400</b>
○国内	41,762	<b>41,272</b>	-490	-1.2%	<b>41,500</b>	-0.5%	92,920	<b>88,500</b>
○海外	594	<b>343</b>	-251	-42.3%	<b>300</b>	+14.3%	5,586	<b>3,800</b>
◆後発医薬品	7,383	<b>10,321</b>	+2,938	+39.8%	<b>9,300</b>	+11.0%	15,465	<b>21,500</b>
ヘルスケア事業	2,645	<b>2,691</b>	+46	+1.7%	<b>2,700</b>	-0.3%	5,512	<b>6,000</b>
営業利益	4,099	<b>3,663</b>	-436	-10.6%	<b>3,900</b>	-6.1%	19,636	<b>14,500</b>
経常利益	4,266	<b>3,921</b>	-345	-8.1%	<b>4,200</b>	-6.6%	19,995	<b>14,900</b>
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	2,967	<b>2,684</b>	-283	-9.5%	<b>3,000</b>	-10.5%	13,639	<b>10,700</b>



# 損益計算書の概要：杏林製薬一①

(単位:百万円)

## <当期のポイント>

	16年3月期 第2四半期		17年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	46,157	100.0%	47,396	100.0%	+2.7%	+1,239
医療用医薬品事業	44,391	96.2%	45,542	96.1%	+2.6%	+1,151
◆新医薬品	41,108	89.1%	40,404	85.2%	-1.7%	-704
○国内	40,604	88.0%	40,182	84.8%	-1.0%	-422
○海外	504	1.1%	221	0.5%	-56.2%	-283
◆後発医薬品	3,283	7.1%	5,138	10.8%	+56.5%	+1,855
ヘルスケア事業	1,765	3.8%	1,854	3.9%	+5.0%	+89

	対前年		
■ 売上高	47,396百万円	(+1,239百万円)	
● 国内新医薬品	40,182百万円	(-422百万円)	
	16.3(2Q)	17.3(2Q)	(億円)
・キプレス	188	⇒ 178	(-10)
・フルティフォーム	30	⇒ 45	(+15)
・ウリトス	37	⇒ 38	(+1)
・ペンタサ	81	⇒ 79	(-2)
・ムコダイン	59	⇒ 44	(-15)
● 海外新医薬品	221百万円	(-283百万円)	
・ガチフロキサシン	4	⇒ 2	(-2)
● 後発医薬品	5,138百万円	(+1,855百万円)	
・モンテルカストAGを発売			
● 一般用医薬品他	1,854百万円	(+89百万円)	
・ミルトン	10	⇒ 11	(+1)
・ルビスタ	3	⇒ 4	(+1)

# 損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	16年3月期 第2四半期		17年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	46,157	100.0%	<b>47,396</b>	100.0%	+2.7%	+1,239
売上原価	18,358	39.8%	<b>20,472</b>	43.2%	+11.5%	+2,114
売上総利益	27,799	60.2%	<b>26,923</b>	56.8%	-3.2%	-876
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	24,637 (6,903)	53.4% (15.0%)	<b>25,010</b> <b>(6,948)</b>	52.8% (14.7%)	+1.5% (+0.7%)	+373 (+45)
営業利益	3,161	6.8%	<b>1,912</b>	4.0%	-39.5%	-1,249
営業外収益	306	0.7%	<b>350</b>	0.7%	+14.4%	+44
営業外費用	0	0.0%	<b>4</b>	0.0%	+812.1%	+4
経常利益	3,468	7.5%	<b>2,259</b>	4.8%	-34.9%	-1,209
特別利益	—	—%	<b>—</b>	—%	—%	—
特別損失	45	0.1%	<b>86</b>	0.2%	+91.1%	+41
税引前四半期純利益	3,422	7.4%	<b>2,172</b>	4.6%	-36.5%	-1,250
法人税・住民税 及び事業税	701	1.5%	<b>248</b>	0.5%	-64.6%	-453
法人税等調整額	239	0.5%	<b>413</b>	0.9%	+72.8%	+174
四半期純利益	2,481	5.4%	<b>1,510</b>	3.2%	-39.1%	-971

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比 3.4ポイント上昇  
(39.8%→43.2%)

- ・薬価改定の影響
- ・後発医薬品の売上ウェイト上昇

◆研究開発費率：前年比 0.3ポイント低下  
(15.0%→14.7%)

\* 69億円→69億円 (金額は横ばい)

◆販管費率(除くR&D費)：前年比0.3ポイント低下  
(38.4%→38.1%)

■営業利益 1,912百万円 ( -1,249百万円)

\* 営業利益率は4.0%と2.8ポイント低下

■四半期純利益 1,510百万円 ( -971百万円)

# 貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)

	16年3月期末	
	実績	構成比
<b>流動資産</b>	102,859	66.1%
現金及び預金	22,326	
売掛金	44,374	
有価証券	5,905	—
棚卸資産	21,774	
その他流動資産	8,477	
<b>固定資産</b>	52,778	33.9%
有形固定資産	14,866	
無形固定資産	486	—
投資その他	37,424	
<b>資産合計</b>	155,637	100.0%

<b>流動負債</b>	20,102	12.9%
買掛金	7,673	
その他流動負債	12,428	—
<b>固定負債</b>	7,925	5.1%
<b>負債合計</b>	28,027	18.0%
<b>株主資本</b>	117,300	75.4%
評価・換算差額等	10,309	6.6%
<b>純資産合計</b>	127,610	82.0%
<b>負債及び純資産合計</b>	155,637	100.0%

17年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
<b>96,497</b>	65.1%	−6,362
<b>28,219</b>		
<b>35,535</b>		
<b>5,913</b>	—	—
<b>20,720</b>		
<b>6,107</b>		
<b>51,783</b>	34.9%	−995
<b>14,444</b>		
<b>458</b>	—	—
<b>36,880</b>		
<b>148,281</b>	100.0%	−7,356

<b>18,072</b>	12.2%	−2,030
<b>8,487</b>		
<b>9,585</b>	—	—
<b>6,443</b>	4.3%	−1,482
<b>24,516</b>	16.5%	−3,511
<b>116,286</b>	78.4%	−1,014
<b>7,478</b>	5.0%	−2,831
<b>123,764</b>	83.5%	−3,846
<b>148,281</b>	100.0%	−7,356

## <当期のポイント>

### ■流動資産：6,362百万円減

- ・現金及び預金の増加 ( +5,893百万円)
- ・売掛金の減少 ( −8,839百万円)
- ・有価証券の増加 ( +8百万円)
- ・棚卸資産の減少 ( −1,054百万円)

### ■固定資産：995百万円減

- ・有形固定資産の減少 ( −422百万円)
- ・無形固定資産の減少 ( −28百万円)
- ・投資その他の減少 ( −544百万円)

### ■流動負債：2,030百万円減

- ・買掛金の増加 ( +814百万円)

### ■固定負債：1,482百万円減

# 主な業績項目の推移: 杏林製薬

(単位:百万円)

	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期
売上高 (海外売上)	43,922 (246)	46,157 (504)	<b>47,396</b> <b>(221)</b>
売上原価 (売上原価率)%	17,354 (39.5%)	18,358 (39.8%)	<b>20,472</b> <b>(43.2%)</b>
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	23,069 (52.5%)	24,637 (53.4%)	<b>25,010</b> <b>(52.8%)</b>
うち研究開発費 (研究開発费率)%	6,334 (14.4%)	6,903 (15.0%)	<b>6,948</b> <b>(14.7%)</b>
営業利益 (営業利益率)%	3,498 (8.0%)	3,161 (6.8%)	<b>1,912</b> <b>(4.0%)</b>
経常利益 (経常利益率)%	3,957 (9.0%)	3,468 (7.5%)	<b>2,259</b> <b>(4.8%)</b>
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	2,940 (6.7%)	2,481 (5.4%)	<b>1,510</b> <b>(3.2%)</b>
一株当たり当期利益(円)	39.60円	33.41円	<b>20.34円</b>
資本金	4,317	4,317	<b>4,317</b>
総資産	126,945	146,458	<b>148,281</b>
純資産	110,288	120,555	<b>123,764</b>
一株当たり純資産(円)	1,485.00円	1,623.24円	<b>1,666.46円</b>
自己資本利益率%	2.7%	2.1%	<b>1.2%</b>
自己資本比率%	86.9%	82.3%	<b>83.5%</b>
人員(人)	1,801人	1,762人	<b>1,725人</b>
設備投資	635	4,435	<b>547</b>
減価償却費	814	961	<b>1,038</b>

16年3月期	17年3月期 (予想)
106,390 (5,343)	<b>106,400</b> <b>(3,600)</b>
40,798 (38.3%)	—
48,129 (45.2%)	—
12,421 (11.7%)	<b>12,900</b> <b>(12.1%)</b>
17,461 (16.4%)	<b>11,700</b> <b>(11.0%)</b>
17,985 (16.9%)	<b>12,200</b> <b>(11.5%)</b>
12,113 (11.4%)	<b>8,900</b> <b>(8.4%)</b>
163.11円	—
4,317	—
155,637	—
127,610	—
1718.23円	—
9.9%	—
82.0%	—
1,731人	—
5,059	<b>1,800</b>
2,241	<b>2,300</b>

# 2017年3月期 第2四半期 主要製品の状況

(単位:億円)

		15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	
				実績	前同比
国内 新薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	174	188	178	-5.2%
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	9	30	45	+51.1%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	34	37	38	+2.0%
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	—	—	—	—
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	86	81	79	-3.0%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	62	59	44	-26.6%

17年3月期 第2四半期 (予想)	予想比
176	+1.2%
54	-16.1%
36	+2.4%
—	—
74	+5.2%
48	-10.5%

16年3月期	17年3月期 (予想)
441	333
72	129
75	78
—	19
161	158
130	108

一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	10	11	+2.8%
------------	----------------------	----	----	----	-------

10	+5.6%
----	-------

21	21
----	----

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結)

(単位:百万円)

	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	増減比
研究開発費	6,119	6,674	7,270	<b>7,327</b>	+0.8%
設備投資	1,618	1,557	5,637	<b>1,383</b>	-75.5%
減価償却費	1,460	1,462	1,658	<b>1,751</b>	+5.6%

	16年3月期	17年3月期 (予想)
	13,019	<b>13,500</b>
	7,218	<b>4,700</b>
	3,730	<b>3,900</b>

## 設備投資の詳細 (実績/予想)

(単位:億円)

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期
工場設備	13	<b>5</b>
管理・販売設備	1	<b>0</b>
研究用設備	42	<b>9</b>

	16年3月期	17年3月期 (予想)
	24	<b>26</b>
	4	<b>5</b>
	44	<b>16</b>

# 開発品一覧①(2016年11月7日現在)

## PhⅢ ~承認

※:前回(2017年3月期 第1四半期 7月29日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
PhⅢ (15年1月)	【米国、欧州、他】 米国ルク社 :PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 ルク社	膀胱のβ <sub>3</sub> 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国ルク社とライセンス契約 (14年7月) キッセイ薬品工業(株)と共同開発・共同販売に関する契約を締結(16年3月)
※申請準備中		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラム陽性菌から陰性菌及び非定型菌までの幅広い抗菌スペクトラムを示す</li> <li>・嫌気性菌に対しても類剤と比較し強力な抗菌活性を有する</li> <li>・優れた組織移行性により、高い臨床効果が期待される</li> <li>・高い安全性(血糖値異常、光線過敏症、消化器症状他)が期待される</li> </ul>	
PhⅢ (16年3月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		

## 参考

開発段階	製品名・ 開発コード	薬効	特 徴	備 考
※MSD(株)が製造販売承認を取得 (16年9月)	デザレックス (デスロラタジン)	アレルギー性鼻炎 蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬	杏林製薬(株)が独占販売権を取得(16年5月) 科研製薬(株)とコ・プロモーションに関する覚書を締結(16年7月)

# 開発品一覧②(2016年11月7日現在)

## POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (再) (15年8月)	ルツ社 Ph III	KRP-209	耳鳴	ドイツ ルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph I / II (15年7月)	【米国】桃太郎源 : Ph I / II 前立腺がん(14年5月)	Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業[NexTEP]への採択 (14年6月)



# 開発品一覧③(2016年11月7日現在)

## 導出品の状況

開発段階／海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	KRP-203	スイス ノバルティス	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調節剤	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) GvHDでの開発集中を 決定(15年11月公表)
前臨床	—	米国 ブリストル・マイヤーズ スクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)

## ■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。